

◆ たたかいと抵抗の歴史を前面に、犠牲者の尊厳と名誉回復をかけた
 「わが青春つきるとも——伊藤千代子の生涯」
 製作・上映運動の「突破点」

藤田 廣登

はじめに

「タイトルは、『3・15 千代子の青春』にしよう！」
 2020年秋、『シナリオ稿』を読み終えた増本一彦
 会長（当時）は、そう桂荘三郎監督に語りかけた。

治安維持法国賠同盟（以下、国賠同盟・同盟）は、
 2019年6月の第39回全国大会方針で、本作品への
 「推薦・賛同」の方向を掲げたが、その前途は未知数で
 あった。同盟は、これまで、「燃やし続けた炎」、「種ま
 く人びと」などのドキュメンタリーは手掛けてきたが、
 長編劇映画となると桁違いの力量が必要となる。「失敗

したら誰が責任取るのか」などの声が聞こえてくる中
 でのスタートであった。増本会長の心労のひとつとなっ
 ていたであろう。映画完成を待つ時間が与えられなかつ
 たのは無念である。

映画「わが青春……」は、国賠同盟中央本部の強力
 な主導の下に、都道府県本部・支部、そして心ある会
 員らが発意し、民主・共同の力で完成の道を切り拓き、
 上映運動の劇的展開にこぎつけるという歴史的大事業
 に発展しつつある。

本稿は、この映画製作・上映運動過程の困難をどう
 突破して来たかについてのレポートである。

(一) 第一の突破点——自主製作運動への道

この映画運動の展開には、企画段階から、いくつか乗り越えねばならない「突破点」があった。

(1) 「重くテーマ」と向き合う

この企画は、民主的映画関係者の間では、最初から共産党員・伊藤千代子の激変の生涯をどう表現するか、に関心が寄せられ、「成功の可能性の低さ」が問題視されていたといわれる。実在の伊藤千代子が無名に近かったため話題性に欠け、通例とされた「製作・上映協力券」の普及は困難である等々と厳しい意見の中での出発となった。

(2) 「製作資金」問題の困難をどう乗り越えるのか

①この成功を危ぶむ意見は、従来の方式での製作資金の調達が極めて困難との指摘となって現れた。その上に「新型コロナ禍」が全国を席卷し、人集めや映画活動がほとんどできないなどの困難が生じていた。

2020年春の状況はこのようであった

②こうした状況の中、国賠同盟が映画賛同・推薦団体として率先して力を発揮していくこととなった。主人公・伊藤千代子は、科学的社会主義に導かれ、治安警察法で組織加入を認められていなかった共産党に率先して入党、治安維持法弾圧での最初の女性犠牲者・「獄死」者として記録されている。私たちの組織は、被弾圧犠牲者の顕彰運動と「国の誤った施策と法律のもとで犠牲となった人々への謝罪（名譽回復）と国家賠償」を求めて1968年結成された「政治的要求実現同盟」である。伊藤千代子の顕彰運動の一環としての映画化運動は総論ではどなたも異論はない。しかし具体化となると、さまざまの組織上の事情が論議され、実践への強弱も生まれてくる。ここでは、千代子映画運動の中核部分を担った同盟全体の活動を総括的にみていくこととする。

③まず数千万円という膨大な「製作資金」を集めるためには、大衆的募金に拠る以外ないことは自明であるが、それをどうやって集約していくかが問題となった。議論の末、編み出されたのが「1000円抛出者・

感動の嵐！ アンコール上映決定！



わが青春つきるとも — 伊藤千代子の生涯 —

8月28日、「わが青春つきるとも」旭川上映会に348人が参加。寄せられた感想の一部を紹介します。

- ◆リアルだった。これが現実だったんだね。少しでも世が良くなってほしいね（Aさん）
- ◆スゴイ映画で涙がでました（Bさん）
- ◆感動しました。彼女らの闘いの上に現在があるのだと、つくづく思いました（Cさん）
- ◆伊藤千代子 忘れられない人になりそう（Dさん）
- ◆信念を貫いた千代子に感動した（Eさん）

◆この映画、若い人達に観てもらいたい（Fさん）
◆伊藤千代子の純粋な意志が、我が身に刺さりました。あとは、私次第です（Gさん）



井上百合子



竹下景子



窪塚俊介



金田明夫



石丸謙二郎



嵐 圭史



8月28日の旭川上映会

第2回 旭川上映会 (上映時間 2時間5分)

11月23日 (水) ①午前10時～
②午後2時～
大雪クリスタルホール 1階大会議室 (旭川市神楽3の7)

「上映協力金」募集 1口1000円

(障がい者および学生 1口500円)

◆申し込みは、下記、実行委員会の団体・個人または連絡先まで。

◆8月28日の「上映協力券」をお持ちの方は、11月23日の上映会でも鑑賞できます。

「わが青春つきるとも」旭川上映実行委員会 (実行委員長：大浦真理子)

旭川労働組合総連合、新日本婦人の会旭川支部、治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟道北支部、日本国民救援会旭川支部、全日本年金者組合旭川支部、旭川生活と健康を守る会、歴史教育者協議会旭川支部、あさひかわ西地域九条の会、あさひかわ東地区九条の会、あさひかわ北西九条の会、比布九条の会、旭川平和委員会、あかつき法律事務所、社会医療法人道北勤労者医療協会、道北勤医協友の会連合会、株式会社北健友社、株式会社えみな福祉企画、社会福祉法人旭川葦の会、菱谷良一、伊東瞳子、大江優香、万年孝子、森田由香、平山紗織

《協力》 三浦綾子記念文学館、旭川民主商工会、平和を守りくらしに憲法を生かす会、あさひかわ春光台九条の会

◆実行委員会連絡先 090-3772-6631 (高松) または 090-8425-2046 (藤田)

100人」運動を通じて1口10万円の資金を集約し、「上映債権」を提供、その母体に「上映権」を付与するという、監督提案のこれまでの民主的映画運動が経験したことのない「手法」を採用した。

(3) 大衆的学習運動の展開

しかし、主人公の伊藤千代子という女性は「無名」に近く、名前は知っていても、どういう活動歴や実績があるのか、小林多喜二や野呂栄太郎、山本宣治などと比して、どんな作品を生み、理論活動や政治的实践をした人か不明だ。映画の主人公としてふさわしいのか、などという議論が先行していた。

①この映画運動を進めるには、まず「伊藤千代子の生涯」を知ってもらうことから始めなければならないのである。その語り部の一人に私も加わった。私には『時代の証言者 伊藤千代子』（映画原作）があるので、その先頭に立つこととなった。全国的な学習運動が同盟主軸で呼びかけられた。学習会では、千代子の生涯と共に、戦前のたたかいと抵抗の歴史を語り、名誉回復と謝罪、国賠問題に決着をつけるこ

との重要性が語られ、同盟運動への確信が生み出された。その広がりには、私だけでも2年半で42都道府県、100か所を超える学習会に参加し、その参加者が県・地域で「実行委員会」を作って製作資金集めに入っていた。

②この学習運動形態は、各県に自前の講師陣を組織していくきっかけを作り、今日までにこの学習会参加者は3000人を超えるものとなり、わが国に新しい「伊藤千代子映画運動者」を生み出すこととなった。大衆的学習運動が、製作資金を創り出していく「担い手づくり」の原動力、ひいては上映運動の担い手となったのである。

③完成した映画では、特別の敬意をこめたメッセージとして、異例ともいわれる「製作支援者（組織）」名を冒頭で紹介することとした。「赤旗の歌」のアレンジが、単調をおもわせるシーンを深く包み込んでスタートさせている。

(4) 自主製作運動の方向性の確立

①「武器なき斗い」に学ぶ 私たちはこの途上で、戦

後の独立プロ運動から学ぶこととした。戦後の荒廃

から起ちあがった映画人と民衆は、1960年には山本宣治の生涯とたたかい、抵抗と死を描いた「武器なき闘い」を完成させた。安保闘争の最中である。

この時、京都、大阪総評と青年部などが日本中にオルグを出して製作資金を集め、その資金をもとに山本薩夫監督作品として完成させた。掲げられたスローガンが「自主製作運動」であった。広く労働者・国民から資金を仰ぎ民主的映画を製作するという文化運動の基底であった。私たちの運動は、その精神を今日に引き継ぐこととした。その過程で「武器なき闘い」が60年を経た今日もお広く鑑賞を持續し、社会を撃っていることが再認識された。桂監督のいう「優れた映画には生命力がある」のである。

②多喜二・プロキノ友の会」と「自分たちの映画」

さらには、戦前、山宣の葬儀を撮影したプロキノ（日本プロレタリア映画同盟・1929—34）の「友の会」発起人に名を連ね、「自分たちの映画」を創ろう、と呼びかけた多喜二の事蹟が研究され、千代子と同時代を生き、たたかった多喜二の提唱の精神をも継承

していくことを自負した。

③運動の途上では、どうやって上映会を成功させるかという議論が先行しがちであった。つまり、この運動を「映画鑑賞会」というわが国に発展してきた形態の中で捕える傾向であった。しかし、映像化の製作資金が創られ、映画が完成しない限り「鑑賞」はあり得ない。そのために知恵と力を注_スごうと力説し、1口≒10万円出金運動を続けてきた。苫小牧や長野県諏訪、塩尻・木曾、中信、上小などの地域が5口、10口と集約をはじめ、その運動が、全県に波及、その帰結として「県実行委員会」が結成されていくという運動形態であった。

2021年7月の主演俳優らのロケ地見学会時点では450口をめざそうと提案。ついで桂監督の「クランクイン10月入り」宣言、映画撮影開始宣言が、さらなる資金集約を推し進め、550口へと目標が引き上げられ、今日、600口の達成目前である。

④2021年10月クランクイン。製作資金の潤沢さを欠いた現場の困難さはさまざまに工夫されて乗り越えていった。ロケ地の選定に当たって、大正・昭和

初期の歴史的建造物などが現地の国賠同盟と協力者によって選びだされた。その上に、同盟などが呼びかけた費用自弁のエキストラ188人の協力が得られたことも特筆される。

(二) 第二の突破点——自主上映運動の展開

(1) 桂壮三郎監督の決意

桂監督には、日活アニメ時代の諸作品、ポルノ・roman時代との訣別の前歴がある。そして近年には、「アンダンテ——稲の旋律」（旭爪あかね原作）、「校庭に東風吹いて」（柴垣文字原作）など優れた映画作品を送り出してきた社会派監督である。温厚で偉ぶらない、柔軟な思考と粘り強い行動力には定評がある。文化団体連絡会議、日本映画復興会議での活動では知る人ぞ知る存在である。そして、自ら国賠同盟に入会され、この映画製作に臨んだ。会員へのリスパケトも忘れない。桂氏は、2018年暮れに、シナリオライターの宮負秀夫氏を伴い、拙宅近くまで訪ねてこられ、拙著を原作とした映画製作を提案された。その時、これまで

の黎明期社会変革運動の活動家を描く作品の主人公は男性が主であったが、女性を主人公にした映画を撮りたいと動機を語り、ジェンダーの視点でこの映画を創るという明確な意思表示をされた。

こうして「こころざしつたふれし少女よ——伊藤千代子の生涯（仮題）」が企画され、3年を経て「わが青春つきたるも——伊藤千代子の生涯」が22年4月完成。全国公開にこぎつけた。ここに至る運動形態を私たちが「自主上映運動」と位置付けたのは前項の苦闘の中から導きだした結論であった。

製作資金を皆で創出し、完成したら抛出者に作品で還すことは自然の理であった。同時に、社会的に優れた作品を広く広範な国民の中へ広げることも誰しも異論のないことであった。

(2) 映画完成と上映運動の新展開

22年4月2日、完成披露試写会を経て、4月15日からの全国上映運動の展開となった。同盟中央本部の「参院選前の2か月間を第1次上映運動にしよう」という提唱は、全国各地で熱烈に受け止められ、会場取得、

宣伝開始などがいち早く取り組まれ、短期間に204会場で3万7253人が鑑賞するという驚異的運動となった。

この運動を支えたのは、同盟県・支部を中心とする550を超える「上映債権」者（組織）であり、その組織が民主団体に共同を呼びかけて実行委員会を作り、上映運動を担っている。千代子の地元長野県では77全市町村2万人鑑賞運動が提起され、北海道でも同様の提案、全市段階を展望する県など、短期間に全県規模の運動に発展させる原動力となっている。

(3) 上映会の熱気

第1次上映運動では、参加者がウクライナ問題や今日の危機的政治情勢を撃つていく「反撃」のエネルギーを創り出していることである。どの会場でも、千代子の生きざまとたたかい、共にたたかう女性群像に感動と共感が寄せられている。その感動と共感は青年層、中学生・高校生にも波及している^(注1)。

こうした中で、日本共産党は創立100周年を迎えた。その草創期に活躍してこころざし半ばで斃れて

いった伊藤千代子への関心の高まりと自公政権による「安倍国葬」、「統一協会」問題、生活直撃の物価問題などへの「怒り」が相乗し、10月現在、鑑賞者は6万人に迫っている。殆どの会場で予定数を上回り、会場で拍手が沸き、感想文提出率も極めて高いものがある^(注2)。

(4) 上映会の拡がり

こうした運動の拡がりの中で、伊藤千代子の母校である諏訪二葉高校の同窓生有志による関東地域上映会、東京女子大学有志・キリスト教団体などの共同する学内上映会も企画され、仙台・尚絅女学院関係者の尽力も始まっている。また、ポレポレ東中野、深谷シネマ、名演劇場、前橋シネマハウスなどの常設館のロードショウも成功的に進行している。特筆されることは、先行グループの中でアンコール上映が始まったことである。

おわりに——同盟運動への展望

同盟運動50年間の歴史の中で、これほどに民主・共

同の運動を展開する事業は初めてのことである。同盟が呼びかける「2020年代に治安維持法体制問題に決着をつける」壮大な国民的運動を展望する時、この運動の経験は大きな「財産」となる。鑑賞者の多くが、稀代の悪法・治安維持法を実感し、呼びかけに応じて同盟運動に参加し始めている。上映地域数は支部数260をはるかに上回り、同盟全会員の数倍の鑑賞者が生まれた。向後2年間で800会場・数十万人の鑑賞者を創り出す運動を展開した時、同盟運動の広大な地平が広がることになる。

いま、われわれの眼前にあるのは——「世の变革を求めて青春を捧げた一人の女性が未来に託したものは何か。私たちには応答する責務がある」額顕厚氏（山口大学名誉教授。『映画鑑賞用パンフ』）のである。

（ふじた ひろと・映画製作を支援する
全国の会事務局、同盟千代子チーム員）

注1 ◆僕も千代子さんのように生きたい——中学生・高校生
の感想文◆

伊藤千代子さんの力強く何事にも屈せず、明るく生きた

姿がとても強く心に残っています。これが実際に起きていたとはとても衝撃ですが、勇気をたくさんもらいました。（中学生）

伊藤千代子さんの母校である諏訪二葉高校の学生です。この映画がきっかけで千代子さんについて興味を持ち、たくさんこのことを知るようになりました。千代子さんの生きざまはとても深く、心に残りました。この映画で、まっすぐに凛とした千代子さんの姿を見て、自分自身の生き方についても深く考えさせられました。

僕は、この千代子さんのことを、他者のことを自分自身のように考えられる強くとても優しい人だと思えます。自分の思ったこと、感じたことが国家と違ったとしても、自分の考えを曲げない。その強さは全て、貧しく、大変な思いをしている人への共感と、自分が何とかするのだ、という決意から来るのだと思います。

僕は千代子さんの強さ、優しさを見習い、心の糧としたいです。僕も千代子さんのように生きたい、と強く思います。強く、優しく、人を想い、生きたいと思えます。本当にありがとうございました。

（ともに「すわい文化村」アンコール

上映フライヤーから転載

注2 「古小牧獄中最後の手紙を見る会」(2022.8・28)

桂壮三郎監督の発言(要旨)

当日、オンラインで参加した桂壮三郎監督は、自らに課した映画製作の目標の各指標がどのように実践されているかについて発言しました。

I 企画の段階で、優れた作品を生み出す目標を定めた。特に「戦前の絶対的天皇専制のアジア侵略戦争に反対し、主権在民、男女平等の声をあげた伊藤千代子の希望と苦難をリズムで描く作品」「国家権力による強権政治と弾圧に抗議し、抵抗した千代子の自覚的生き方を正面から描き感動と共感を呼ぶ映画」とする目標に迫りうるものとなった。

II 4月から開始された第一次上映運動は僅かの期間に、①全国200会場で、3万7000人を超える人々の参加、常設館でも成功したこと、②反戦平和と社会的弱者のためにたたかう千代子への共感と感動、自らの生き方に迫り、二度と治安維持法時代へ戻してはならないという決意が述べられるなど、深い作品の評価となっている。感想文の多さもこれまでの映画界の常識を超えた、③各専門家からも

高い評価が与えられた。④1960〜70年代の独立プロの優れた作品に続くものとなったと自負できるものとなった。

一方、この映画を若い人々に観てもらおうという観点をつらぬいて製作したが青年層への浸透には十分に成功していない。しかし、兵庫県民青などの優れた経験や長野、埼玉などでの高校生の参加も生まれ、素晴らしい感想文も寄せられている。

いま開始されている第2次上映運動は、先行するグループに全国的な上映運動が合流し、全国市町村単位の上映会が視野にある。2023年へ向かう壮大な運動を展開するために、①この運動を推進する県・地域の実行委員会の組織化を強める。②その中核に治安維持法同盟が座ること、③大作文化作品の鑑賞方法として、感動効果を半減させる小さい学習室やスクリーンを避け、小・中ホール以上の会場の確保を推奨し、映写効果をより確実にする努力を要請する。

(写真)8月28日、384人が参加して成功した旭川会場の模様とアンコール上映のフライヤー)